

# 四半期報告書

(第62期第2四半期)

自 平成27年7月1日

至 平成27年9月30日

**SD エンターテイメント株式会社**

札幌市中央区南3条西1丁目8番地

# 目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	5
1 株式等の状況	5
(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(6) 大株主の状況	6
(7) 議決権の状況	6
2 役員の状況	6
第4 経理の状況	7
1 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	10
四半期連結包括利益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
2 その他	17
第二部 提出会社の保証会社等の情報	18

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成27年11月13日
【四半期会計期間】	第62期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）
【会社名】	SDエンターテイメント株式会社
【英訳名】	SD ENTERTAINMENT, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河野 正
【本店の所在の場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役 吉住 実
【最寄りの連絡場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【電話番号】	011-241-3951
【事務連絡者氏名】	常務取締役 吉住 実
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第62期 第2四半期連結 累計期間
会計期間		自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日
売上高	(千円)	3,963,084
経常損失(△)	(千円)	△17,046
親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	(千円)	△79,190
四半期包括利益	(千円)	△82,845
純資産額	(千円)	2,152,214
総資産額	(千円)	10,664,215
1株当たり四半期純損失金額(△)	(円)	△9.15
潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益金額	(円)	-
自己資本比率	(%)	20.1
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	166,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	143,017
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	350,598
現金及び現金同等物の四半期末残高	(千円)	1,616,395

回次		第62期 第2四半期連結 会計期間
会計期間		自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純損失金額(△)	(円)	△1.58

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、第1四半期連結累計期間に新たに連結子会社を取得したことに伴い、第62期第1四半期連結累計期間から初めて四半期連結財務諸表を作成しております。
4. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は次のとおりであります。

(その他)

エムシーツー株式会社及びその子会社3社(ITグループ株式会社、ITネクスト株式会社及びIT Telemarketing株式会社)、並びに株式会社フォーユー及びその子会社(株式会社フィリア)を連結子会社といたしました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、原油価格下落の影響や各種政策の効果もあって、緩やかな景気の回復基調が続いているものの、中国を始めとするアジア新興国等の景気の下振れなど、不安定な要素も抱えつつ推移しました。

このような環境の下、「健康グループ」の経営理念であり、当社の経営の基本方針である「皆様の『けんこう（KENKOU）』をつくり、『えがお（EGAHO）』と『かがやき（KAGAYAKI）』と『ありがとう（ARIGATOU）』を創造し続け、世界中に広めます。」の経営理念のもと、経営の効率化を図り、一層の収益力の強化に取り組んでまいりました。

前期はコスト削減・体質改善を中心とする「フェーズ1」を推し進め成果を上げほぼ終了し、今期は売上拡大・成長を主眼とする施策を推進する「フェーズ2」へと移行、セグメント横断的な施策として、再来場促進を狙いとしたスマホ用「ディノスアプリ」を最大限に活用するなど、顧客基盤強化施策を実施したほか、ポイントカード会員システムを一新し、従来できていなかったCRM（Customer Relationship Management）の強化推進を進めるべく準備に入っております。

また、電力料金値上げによる負担増を抑えるための施策として、従来より北海道内の自社ビルである大型複合アミューズメント施設を中心に、インバーター制御盤の交換や電球のLED化を進めてまいりましたが、今期も引き続き、一部店舗に省エネのための設備投資を順次実施しており、コスト削減に努めております。

平成27年5月12日に開示したとおり、エムシーツー株式会社の発行済全株式を健康コーポレーションから譲受けしたことに伴い、健康コーポレーション以外からのコールセンター事業などの通信事業、事務用品等の販売を行う「カウネット」事業、ソフトウェア販売事業及び介護事業を営むエムシーツー株式会社及びその子会社3社を譲り受けしたこと、加えて介護事業と通信事業を営む株式会社フォーユー及びその子会社を連結子会社にしたことで、業容の拡大、ならびに既存事業との連携及び効率化を図りたいと計画しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は39億63百万円、営業利益は79百万円、経常損失は17百万円となりました。ゲーム店舗1店舗閉店により、固定資産除却損等の特別損失を39百万円計上し、親会社株主に帰属する四半期純損失は79百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における売上高をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	前年同四半期比 (%)
GAME事業部 (千円)	1,151,293	—
フィットネス事業部 (千円)	1,115,073	—
ボウリング事業部 (千円)	553,921	—
施設管理事業部 (千円)	615,787	—
（シネマ） (千円)	(459,153)	(—)
（その他） (千円)	(156,633)	(—)
その他 (千円)	527,008	—
合計 (千円)	3,963,084	—

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 施設管理事業部の（その他）は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

3. 施設管理事業部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

4. 当第2四半期連結累計期間は、連結初年度にあたるため、前年同四半期との比較は行っておりません。

(GAME事業部)

GAME事業部につきましては、平成27年5月に新規店舗として「ディノスパーク南福島店」を出店しました。ビデオゲームの「鉄拳7」、「Wonderland Wars」などのヒット作に恵まれたほか、閑散期にクーポンを配布して再来場を促しました。名古屋市内のゲーム店舗1店舗の閉鎖や一部改装のために休業がありましたが、シルバーウィーク期間中は既存店が堅調に稼動したことなどにより、売上高は11億51百万円となりました。

(フィットネス事業部)

フィットネス事業部につきましては、ホットヨガのハーティノルベサ店を加圧スタジオのBLOOMSに業態転換しました。その他、オリジナル物販商品のラインナップを拡大したこと、見学者の入会率アップや退会率の引き下げなどのKPIの改善策の実施などにより、売上高は11億15百万円となりました。

(ボウリング事業部)

ボウリング事業部につきましては、前期から推進しているLTB（ボウリング教室）を強化し、トーナメント、リーグへ繋げ顧客の拡大を図りました。また、前期好評を得たDJで場内を盛り上げ、アルコール販売強化を目的としたイベントガール投入を継続し、「パーティ・ボウリング」を推進したことや新しいメニューの追加、シャンパン等高額商品の販売も試みました。さらには、マスキング広告の売り込みにも着手したことなどにより、売上高は5億53百万円となりました。

(施設管理事業部)

施設管理事業部につきましては、「シネマ」部門において、「ジュラシック・ワールド」、「バケモノの子」及び「HERO」等ヒット作を例年よりも多く上映できました。夏休み映画でスタンプラリーを実施したほか、一部地域では競合店の撤退等もあり、売上高は4億59百万円となりました。「その他」に分類している賃貸施設管理部門においては、新たに室蘭の店舗の遊休スペースを他社のカラオケ店に賃貸し（平成27年5月）、売上高は1億56百万円となりました。

(その他)

その他のカフェ事業等につきましては、利用料金の改定、新しい飲食メニューの導入、スキャナー導入などのビジネス機能の強化や各種企画開催等の施策を実施しました。また、オンラインゲームの新タイトル導入によるコンテンツの強化、それに合わせたゲームパック料金サービスを開始しました。

また、グループ会社による事務用品等の販売を行う「カウネット」事業、通信事業、訪問介護事業、介護事業及び通信テレマーケティング事業の運営により、売上高は5億27百万円となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、16億16百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、1億66百万円となりました。これは主に、未払消費税等の減少額が95百万円及び税金等調整前四半期純損失が58百万円ありましたが、非資金費用である減価償却費が3億26百万円あったことなどによるものであります。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、1億43百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が1億55百万円ありましたが、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入が2億59百万円及び有形固定資産の売却による収入が15百万円あったことなどによるものであります。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は、3億50百万円となりました。これは主に、短期借入金の返済による支出が5億80百万円、社債の償還による支出が4億69百万円及び長期借入金の返済による支出が4億9百万円ありましたが、長期借入れによる収入が15億円及び短期借入れによる収入が3億30百万円あったことなどによるものであります。

なお、当第2四半期連結累計期間は、連結初年度にあたるため、前期末及び前第2四半期連結累計期間との比較分析は行っておりません。

## (3) 財政状態の分析

### （資産、負債及び純資産の状況）

当第2四半期連結累計期間末における総資産は106億64百万円、負債は85億12百万円、純資産は21億52百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間は、連結初年度にあたるため、前期末との比較分析は行っておりません。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,000,000
計	28,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,757,000	8,757,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	8,757,000	8,757,000	—	—

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成27年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日 (注)	30,000	8,757,000	9,777	148,885	9,777	1,177,880

(注) 新株予約権の行使によるものであります。



## (6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
健康コーポレーション株式会社	東京都新宿区北新宿2丁目21番1号	5,340	60.98
株式会社北洋銀行	札幌市中央区大通西3丁目7	424	4.84
河野 正	東京都新宿区	220	2.51
マイルストーン キャピタル マネジメ ント株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6-2	92	1.06
中道リース株式会社	札幌市中央区北一条東3丁目3番地	74	0.85
S Dエンターテイメント従業員持株会	札幌市中央区南三条西1丁目8番地	56	0.65
オリックス株式会社	東京都港区浜松町2丁目4-1	40	0.46
株式会社つうけん	札幌市白石区本通19丁目南6-8	30	0.35
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	24	0.27
三和サービス株式会社	札幌市西区発寒十二条12丁目1番5号	22	0.26
計	—	6,324	72.22

(注) 上記のほか、自己株式が58千株あります。

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 58,900	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 8,697,200	86,972	—
単元未満株式	普通株式 900	—	—
発行済株式総数	8,757,000	—	—
総株主の議決権	—	86,972	—

## ② 【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
S Dエンターテイメント 株式会社	札幌市中央区南3条 西1丁目8番地	58,900	—	58,900	0.67
計	—	58,900	—	58,900	0.67

(注) 上記のほか、単元未満株式88株を所有しております。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

当社は、第1四半期連結会計期間に新たに連結子会社を取得したことに伴い、第1四半期連結会計期間から初めて四半期連結財務諸表を作成しております。そのため、比較情報は記載しておりません。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について瑞輝監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(平成27年9月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,616,395
売掛金	382,169
商品及び製品	41,633
原材料及び貯蔵品	84,672
その他	232,789
貸倒引当金	△2,321
流動資産合計	2,355,338
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	3,030,868
土地	2,670,817
その他(純額)	866,016
有形固定資産合計	6,567,702
無形固定資産	
のれん	176,325
その他	51,150
無形固定資産合計	227,475
投資その他の資産	
差入保証金	1,166,262
その他	271,912
投資その他の資産合計	1,438,174
固定資産合計	8,233,353
繰延資産	75,523
資産合計	10,664,215
負債の部	
流動負債	
買掛金	263,777
短期借入金	10,270
1年内償還予定の社債	862,800
1年内返済予定の長期借入金	769,294
未払法人税等	19,998
ポイント引当金	9,050
その他	1,404,792
流動負債合計	3,339,983
固定負債	
社債	2,429,600
長期借入金	2,059,351
資産除去債務	146,074
その他	536,991
固定負債合計	5,172,017
負債合計	8,512,000

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(平成27年9月30日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	148,885
資本剰余金	1,855,845
利益剰余金	148,997
自己株式	△13,288
株主資本合計	2,140,440
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	6,499
その他の包括利益累計額合計	6,499
新株予約権	5,275
純資産合計	2,152,214
負債純資産合計	10,664,215

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	3,963,084
売上原価	836,456
売上総利益	3,126,628
販売費及び一般管理費	
給料	788,359
退職給付費用	10,507
地代家賃	579,582
その他	1,668,942
販売費及び一般管理費合計	3,047,391
営業利益	79,236
営業外収益	
受取利息	1,241
受取配当金	349
受取保険金	3,831
その他	1,999
営業外収益合計	7,421
営業外費用	
支払利息	38,359
その他	65,345
営業外費用合計	103,705
経常損失(△)	△17,046
特別利益	
投資有価証券売却益	2,672
受取和解金	4,000
新株予約権戻入益	244
特別利益合計	6,916
特別損失	
固定資産除却損	38,367
減損損失	9,673
店舗閉鎖損失	655
特別損失合計	48,696
税金等調整前四半期純損失(△)	△58,826
法人税、住民税及び事業税	14,978
法人税等調整額	5,385
法人税等合計	20,364
四半期純損失(△)	△79,190
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△79,190

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

		当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
四半期純損失(△)		△79,190
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金		△3,655
その他の包括利益合計		△3,655
四半期包括利益		△82,845
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益		△82,845
非支配株主に係る四半期包括利益		-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成27年4月1日  
至 平成27年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△58,826
減価償却費	326,415
のれん償却額	5,951
減損損失	9,673
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	95
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	300
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△12,757
新株予約権戻入益	△244
受取利息及び受取配当金	△1,591
支払利息	38,359
社債発行費償却	10,131
有形固定資産売却損益 (△は益)	△605
有形固定資産除却損	56,667
投資有価証券売却損益 (△は益)	△2,672
受取和解金	△4,000
売上債権の増減額 (△は増加)	△40,574
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△21,753
未収入金の増減額 (△は増加)	5,867
その他の資産の増減額 (△は増加)	29,616
仕入債務の増減額 (△は減少)	△26,635
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△95,687
未払金及び未払費用の増減額 (△は減少)	45,419
その他の負債の増減額 (△は減少)	△42,393
小計	220,758
利息及び配当金の受取額	407
利息の支払額	△35,902
和解金の受取額	4,000
事業構造改善費用	△891
法人税等の支払額	△21,771
営業活動によるキャッシュ・フロー	166,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	
短期貸付金の回収による収入	12,030
長期貸付金の回収による収入	11,853
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	259,880
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△2,511
有形固定資産の取得による支出	△155,142
有形固定資産の売却による収入	15,594
投資有価証券の取得による支出	△834
投資有価証券の売却による収入	15,009
無形固定資産の取得による支出	△4,024
差入保証金の差入による支出	△21,686
差入保証金の回収による収入	12,848
投資活動によるキャッシュ・フロー	143,017

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自平成27年4月1日  
至平成27年9月30日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	330,000
短期借入金の返済による支出	△580,000
長期借入れによる収入	1,500,000
長期借入金の返済による支出	△409,671
社債の発行による収入	193,081
社債の償還による支出	△469,400
新株予約権の行使による株式の発行による収入	98,828
長期未払金の返済による支出	△72,365
リース債務の返済による支出	△142,057
配当金の支払額	△56,977
連結子会社の旧株主に対する配当金の支払額	△40,840
財務活動によるキャッシュ・フロー	350,598
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	660,216
現金及び現金同等物の期首残高	956,179
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,616,395



【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、新たに取得したエムシーツー株式会社及びその子会社3社（ITグループ株式会社、ITネクスト株式会社及びIT Telemarketing株式会社）を連結の範囲に含め、四半期連結財務諸表を作成しております。

第2四半期連結会計期間において、新たに取得した株式会社フォーユー及びその子会社（株式会社フィリア）を連結の範囲に含め、四半期連結財務諸表を作成しております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間より「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）を適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	1,616,395千円
現金及び現金同等物	1,616,395

(株主資本等関係)

当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月29日 定時株主総会	普通株式	57,232	13.4	平成27年3月31日	平成27年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	GAME 事業部	フィット ネス事業 部	ボウリン グ事業部	施設管理 事業部	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	1,151,293	1,115,073	553,921	615,787	3,436,076	527,008	3,963,084	-	3,963,084
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,151,293	1,115,073	553,921	615,787	3,436,076	527,008	3,963,084	-	3,963,084
セグメント利益	68,542	121,777	40,005	78,563	308,889	21,419	330,309	△251,072	79,236

(注) 1. 「その他」の内容は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「カフェ事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△251,072千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	全社・消去	合計
	GAME 事業部	フィット ネス事業 部	ボウリン グ事業部	施設管理 事業部	計			
減損損失	-	-	-	9,673	9,673	-	-	9,673

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて、エムシーツー株式会社の全株式を取得し、同社及び同社の子会社3社を連結子会社にしたことにより、155,254千円増加しております。

また、株式会社フォーユーの全株式を取得し、同社及び同社の子会社を連結子会社にしたことにより、25,937千円増加しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社フォーユー  
事業の内容 介護事業及び通信事業等

(2) 企業結合を行った主な理由

介護事業及び通信事業を営む株式会社フォーユー及びその子会社1社を取得することで、業容の拡大、ならびに既存事業との連携及び効率化を図るため。

(3) 企業結合日

平成27年7月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

結合後の企業名称に変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として全株式を取得したためであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成27年7月1日から平成27年9月30日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	60,000千円
取得原価		60,000

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

25,937千円

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される、将来の収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、以下のとおりであります。

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額(△)	△9円15銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	△79,190
普通株主に帰属しない金額(千円)	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	△79,190
普通株式の期中平均株式数(株)	8,654,678

(注) 1. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2. 当社は、平成27年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月12日

SDエンターテイメント株式会社

取締役会 御中

瑞輝監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 大浦 崇志 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 水野 秀樹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているSDエンターテイメント株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、SDエンターテイメント株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成27年11月13日
【会社名】	S Dエンターテイメント株式会社
【英訳名】	SD ENTERTAINMENT, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河野 正
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	札幌市中央区南3条西1丁目8番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長河野正は、当社の第62期第2四半期（自平成27年7月1日 至平成27年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。